



発行: 日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人: 北畑仁史 編集人: 谷口龍太郎
住所: 〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL (0857) 26-6605 FAX (0857) 26-6615
E-mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ: https://jtuc-tottori.jp

働く人、生活者の立場から 「働くことを軸とした安心社会」をめざして —「2026労働政策セミナー・政策討論集会」を開催—



主催者あいさつ／北畑会長

連合鳥取は7月4日(土)、「2026労働政策セミナー・政策討論集会」をエスパック未来中心(倉吉市)で開催しました。連合鳥取から95人、推薦議員団から7人の計102人(うち女性19人・女性参画率18.6%)が参加しました。

初めに主催者を代表して北畑仁史会長があいさつし、「労働政策セミナー」では、鳥取県政策統括監の遠藤俊樹さんを講師に招き、「令和8年度鳥取県の取組」と題して講演いただきました。

その後の「政策討論集会」では、鳥取県に対する「2027年度連合鳥取政策・制度要求(案)」について討論が行われました。連合鳥取は、鳥取県における政策・制度の取り組みを地域労働運動の主要な柱と位置づけ、鳥取県と鳥取労働局に対し、毎年「政策・制度要求」を行っています。本年度の要請事項について、各政策責任者から提起し、参加者からの質問に答えました。

最後に、労働政策局長の細砂直副会長が集会まとめを行い、北畑会長による「団結がんばろう」で閉会しました。

労働政策セミナー

★人口減少を防ぐため、鳥取県の行っている取り組み(出会い・結婚から妊娠・出産を経て子どもたちの健やかな成長を支えていく切れ目のない支援)などについて説明があった。



講師／遠藤鳥取県政策統括監

政策討論集会

★21項目の「2027年度政策・制度要求(案)」について説明する政策責任者



左から／河村正之(事務局長) 三浦敏樹(自治労)執行委員長 浅山里奈(UAゼンセン)支部長 田中智史(電機連合)議長
細砂直(日教組)執行委員長 亀山泰孝(JR連合)議長 大橋良輔(全国農団労)執行委員長 森由香里(フード連合)書記長

参加者から、要請内容について「どういう意図で項目を挙げたのか。具体的に何を求めているのか」などの質問があり、担当の政策責任者が回答を行いました。

要求案は「第8回(拡大)執行委員会(2026.7.16)」で補強を行い、8月上旬には鳥取県知事へ要請書として提出します。その後、鳥取県の担当部局との交渉を行い、来年度施策への反映をめざします。



質問する参加者

連合平和行動月間

6月／沖縄

8月／広島・長崎

9月／根室

連合鳥取「2026推薦議員団会議」を開催

7月4日(土)、「連合鳥取2026推薦議員団会議」をエスパック未来中心で開催しました。

連合鳥取から政治センター幹事会の役員(代理含む)19人、推薦議員8人(県議4人、市・町議4人)が出席しました。初めに主催者を代表して、北畑仁史会長があいさつし、続いて、推薦議員団を代表して立憲民主党鳥取県総支部連合会の興治英夫代表があいさつされました。

会議では、河村正之事務局長が「連合鳥取からの提起」として、議論経過・課題認識・検討課題について説明し、その後、意見交換が行われました。



あいさつする北畑会長



推薦議員団 代表あいさつ／興治立憲民主党鳥取県連代表



会場の様子



提起する河村事務局長

東部・中部・西部
地協発

各地域協議会も「男女平等参画社会の実現に向けた要請」行動を実施

各地域協議会は連合鳥取推薦の各市議会議員の協力のもと、「性別・年齢・国籍・障がいの有無・就労形態などにかかわらず、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合うことのできる職場・社会の実現」に向け、当該の市長へ要請書を手交し、意見交換を行いました。

＜東部地協／鳥取市＞ 7月7日(火) 深澤義彦市長へ手交(写真上)

参加者／大橋良輔議長 山下浩二事務局長 長坂則翁議員 勝田鮮二議員

＜中部地協／倉吉市＞ 7月14日(火) 広田一恭市長へ手交(写真中)

参加者／寺田真里事務局長 福井康夫議員

＜西部地協／米子市＞ 7月下旬～8月上旬予定

＜ “ ”／境港市＞ 7月9日(木) 黒見政之総務部長へ手交(写真下)

参加者／遠藤史章議長 松本善樹事務局長



深澤市長(左から3番目)に要請書を手交する大橋議長(左から54番目)



広田市長(左)に要請書を手交する寺田事務局長(右)



黒見総務部長(左)に要請書を手交する遠藤議長(右)

中部地協発

「政治学習会」を開催

7月17日(金)、倉吉体育文化会館において、推薦議員4人を含む41人の参加をいただき、「中部地協政治学習会」を開催しました。

冒頭の戸羽弘樹議長あいさつでは、地域の働く仲間が集まり、行政・議会と直接意見交換できる場の重要性が述べられました。また、中部地域が抱える課題を共有し、地協としても政策提言力を高めていく必要性が強調され、参加者が主体的に学び合う場として本学習会への期待が示されました。

続いて、鳥取県議会の興治英夫議員、伊藤保議員、倉吉市議会の福井康夫議員、北栄町議会の蓑原美百合議員より、県政・市政・町政の現状について報告をいただきました。4人の報告終了後には、単組から事前に寄せられた地域課題(若者の地域定着、地域の賃金水準・最低賃金上昇の影響)について提示し、議員のみなさんからそれぞれの立場でコメントをいただきました。

今回の学習会を通じて、地域の働く仲間が直面する課題に対し、行政・議会・労働組合が連携して取り組むことの重要性を改めて確認する機会となりました。中部地協として、引き続き政策課題の整理と発信に取り組んでいくことの大切さを共有できた学習会となりました。



あいさつする戸羽議長



興治議員

伊藤議員

福井議員

蓑原議員

活動報告や地域課題について説明する議員のみなさん

女性委員会発

“育てる楽しみと続いていくつながり”を学ぶ
—「産別交流会」に33人参加—

6月28日(日)、倉吉市の打吹回廊「チュウブ コミュニティホール」にて「産別交流会」を開催しました。

冒頭、連合鳥取女性委員会の桶本早苗委員長(写真右)は「私たち女性一人ひとは日々の社会や家庭で様々な役割を果たし、その中で学んだことを大切に、日々の生活で根を張り花を咲かせようとしている。今回の産別交流会では、となりの人との会話を楽しみ、笑顔あふれる時間を作りあげていただきたい」とあいさつしました。

その後、「farm garden チトのゆび(田村閑美さん代表)」さんを講師に迎え、多肉植物の寄せ植え体験を行いました。寄せ植え体験を行う前に多肉植物について説明いただきました。世の中には約2万種類の多肉植物があることを聞き、参加者たちは興味津々な様子でした。寄せ植え体験では、参加者に配布された多肉植物を鉢に各自思い思いに植え、寄せ植えを楽しみました。初めて寄せ植えを行う参加者がほとんどで、「植えるのが意外と難しい」という声も聞かれましたが、分からない時は参加者同士でフォローし合い、全員で協力しながら寄せ植えを行うことができました。参加者によって植物の植え方や配置に違いが出て個性あふれる寄せ植えができ上がり楽しい時間となりました。講師より多肉植物の水や肥料の与え方についても説明いただき、参加者は「家に持ち帰った後も大切に育てていきたい」と満足した様子でした。



講師／「farm gardenチトのゆび」



あいさつする桶本委員長



指導を受けながら作業する参加者

普段異なる産別同士で話ができる機会はあまりないため、今回の寄せ植え体験での会話を通して、産別間における横の輪が広がったように思います。今後は、今回の産別交流会でできた、横の輪を大切にして、困ったことがあったら何でも相談し合いながら活動を展開していきたいと考えています。

<寄稿 女性委員会幹事 竹内 雪乃さん>

青年委員会発

“承認から始まる職場のコミュニケーション”
—「2026学習会」に36人参加—

山岡孝平委員長あいさつ

7月11日(土)、エースパック未来中心において「学習会」を開催しました。今回は、(一財)生涯学習開発財団認定マスターコーチの笠木理恵さんを講師に迎え、「承認から始まる職場のコミュニケーション(相手を見て、聞いて、関わる力)」をテーマに、隣や前後の参加者とワーク(会話)を交えながら学び、「承認」の大切さを具体的に理解することができました。相手の良い点や努力に目を向け、それを言葉にして伝えることが、信頼関係の構築や円滑なコミュニケーションにつながると感じました。

ワークでは初めてお話しする方ばかりでしたが、相手の話をしっかり聞き、お互いに褒め合うことで、短い時間の中でも理解を深めることができました。また、他産別の方々との交流を通して、新たな気づきや学びを得ることができました。

私自身、あいさつの際に相手の名前を呼ぶことは、簡単なようで少し照れくさく感じるため一番難しいことだと思いますが、相手を承認する第一歩として、まずは名前を呼んであいさつすることから実践していきたいと思っています。

(寄稿 青年委員会幹事 島田真帆さん)



講師／笠木さん



ワークの様子

連合「労働時間制度に関する緊急アンケート調査」への協力をお願い

現在、労働政策審議会などで労働時間規制の議論が行われていますが、経営者団体は「労働者にも柔軟な働き方のニーズがある」として、裁量労働制の拡充を含む規制緩和を強く主張しています。

こうした状況を踏まえ、連合として働く者の「働き方」に対する意識やニーズの把握を行い、働く人の声を審議会などでの意見反映に活用することを目的にアンケートを実施しています。

所要時間3分程度でできる簡単なアンケートですので多くの組合員みなさんのご協力をお願いします。

以下URLもしくは添付の二次元コードよりご回答ください。

URL <https://rocky.org/z/JTUC26/2026>

【実施期間】実施中～8月21日(金)

【対象】全国の雇用労働者(雇用形態は問いません)



各地域協議会が「献血運動推進全国大会」で表彰されました！

7月10日(金)、「第62回献血運動推進全国大会」が米子コンベンションセンターで開催されました。鳥取県での開催は、1978年の「第14回大会」以来実に48年ぶりで、日本赤十字社名誉副総裁の秋篠宮妃紀子様をはじめ、全国から約1,000人が参加し、盛大に行われました。

今回、「厚生労働大臣表彰」を西部地域協議会が受賞し、「日本赤十字社金色有功章」に東・中・西の3地域協議会が受賞しました。これは、多年にわたり、組合員みなさんに「メーデー献血」などでご協力いただいていたことが評価された結果と考えます。

連合鳥取は、引き続き、献血活動などの社会貢献活動を継続実施し、「誰もが安心できる地域社会づくり」に貢献していきます。



左から／東部地協・山下浩二事務局長
西部地協・松本善樹事務局長



【厚生労働大臣表彰】全国99件 (うち鳥取県内4件)

- ・連合鳥取西部地域協議会
- ・株式会社プロテリアル鳥取工場
- ・NTT西日本株式会社鳥取支店
- ・株式会社清水

【日本赤十字社金色有功章】全国8,233件(うち鳥取県内10件)

- ・連合鳥取東部地域協議会
- ・連合鳥取中部地域協議会
- ・FDK鳥取工場 FDK労働組合鳥取支部
- ・日本郵便株式会社因幡地区連絡会
- ・米子製鋼株式会社
- ・倉古グレートライオンズクラブ
- ・鳥取砂丘ライオンズクラブ
- ・株式会社高野組
- ・一般財団法人生命保険協会鳥取県協会

“ザ・議員”

村上 泰二郎 鳥取県議会議員

ー共に歩む政策実現への道ー

9月18日(金)に県議会で代表質問として、丸一日、知事と議論を行う予定です。

日頃から受け止めている地域の思いや同僚議員の思いも伝えることはもちろん、今年の連合鳥取「労働政策セミナー・政策討論集会」で学んだ内容についても更なる調査を行い、働く者の代弁者として提案してまいります。

県議会では毎年4回の議会での質問はもちろん、9月と2月の代表質問では特に力を入れて連合鳥取のみなさんと連携して取り組んでまいります。日頃からの連携に加えて、議会の動きも節目を捉えていただき、共に政策実現に向けての取り組みを加速させていただければ幸いです。



連合鳥取「推薦議員団会議」(2026.7.4)にて

坂根 政代 鳥取市議会議員

深澤市政4期目の初議会は、第12次鳥取市総合計画に基づく補正予算及び農業委員と新副市長の承認などがありました。

私は、連合鳥取東部地域協議会の会議で、「今年、倉吉市で開催される防災国体になみ、鳥取市の福祉避難所がどうなっているか気になっている」との意見から、福祉避難所について質問をしました。

福祉避難所として協定ができていたのは46か所(鳥取市HPを参照ください)です。しかし、要支援者の把握にもなる要支援者個別避難計画の策定は約2割しかできていない状況です。さらには、災害があった場合は、まず指定避難所へ避難し、その後当事者の状況によって福祉避難所への避難となり、直接福祉避難所へ避難することは、まだまだの状況でした。命を守り、安全な避難の仕組みを早期に実現すべきことを要望しました。



令和8年6月議会で質問する坂根議員

ジョージ・オーウェル著「1984年」という小説を紹介したい▼全体主義国家オセアニアでは「ビッグ・ブラザー」率いる党が支配し、歴史も事実も党の都合に合わせて改ざんされ続けている。市民は常時監視され、歴史の改ざんにも慣らされてしまっているが、主人公ウィンストン・スミスは真理省で歴史の改ざんの仕事をしながら、体制への疑念を募らせる。ある時、ジュリアと恋に落ちたことを契機に、彼は伝説的な裏切り者が組織したと噂される反政府地下活動に惹かれるようになるが、70年以上前に書かれたもののだが、読み進めるほどに物語る現在の世相と重なっていく▼有識者会議の決定という不思議な重要政策が国会軽視で決められてしまいう現状。積極財政という赤字隠し。外部の脅威を強調し、権利制限につながりかねない国家情報局の創設。防衛装備移転という言い換えによる武器輸出▼私たちもわずかな変化に慣らされてしまわないう、身の回りにおきる小さな変化・危機への感性を鈍らせないよう、おかしなことを、おかしいとおかしいと声を挙げ続けたい。

(牛歩)



てんぐとくちや



再生紙を使用しています